日刊 動労千葉

81.9.11

No.843

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一-八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

三里塚・ジェット闘争貫徹！「国鉄35万人体制」粉砕！

こんなデタラメな処分許せるか！

怒りも新たに、我々6名は、最先頭で闘い続ける！

九月八日、国鉄当局は断じて許せない不当処分を六名の仲間にかけてきた。コロビ屋革マル嶋田が自作自演でデッチ上げ、告訴し、権力にわが仲間を売り渡したあの「6・12津田沼事件」を口実に、全く何の根拠もなく起訴された三名の仲間（片岡支部長・吉岡青年部長・篠塚君）を刑事休職に、当然ながら起訴されてもいない三名の仲間（重見書記長・深見乗務員会長・小倉執行委員）に対してさえ、一ケ月の停職処分をかけるという全くデタラメな反動的処分である。われわれは断じて許さない。即日怒りの抗議集会と、九日の24H減産闘争がうちぬかれた。九月八日、怒りの千鉄局前抗議集会での六名の仲間の抗議と決意の表明を、本号および次号で紹介します。

いささかのあいまいさもなく、労働者の敵を見すえ、打倒せよ！

（津田沼支部執行委員長）　片岡一博

雨の中大変ごくろう様です。

まず、冒頭、動労「本部」革マルによる百パーセントのデッチ上げに依拠し、国鉄当局が私たち六名に不当な処分をかけてきたという暴挙に対し満腔の怒りをもって弾劾するものであります。

国鉄当局は、動労千葉が分離独立して以来、今日まで、われわれに対し一体何をやってきたのか。知っての通り、中野書記長の解雇から、布施副委員長の解雇、そしてあの三月決戦ストに対しては西森・山口・水野・吉岡の四名の執行委員の首を切り、二二五名におよぶ大量不当処分を加えてきたことをわれわれは忘れる事はできない。それに加えて、今回、権力・当局と動労革マル一体となって、デッチ上げにもとづく六名への不当な休職・停職処分をかけてきたことは断じて許すことはできません。

しかも重大なことは、この攻撃の最先頭に動労「本部」革マルが立っているという事実です。敵は誰か！——われわれは、いささかのあいまいさもなくこれを直視して、全職場からやつらを打倒・一掃していかなければなりません。私たちのこの憎しみと怒りをもって全国の全職場から「本部」革マル反動分子を叩き出していかねばなりません。この闘いを通じて八〇年代に勝ちぬく自前の労働運動の路線をもっと強くうちきたえてゆくことができると考えます。

私たち六名は、その闘いの最先頭で闘いぬく決意を申し上げまして、私の決意といたします。

獄中での怒りを再び新たに、頑張る

（津田沼支部執行委員）　小倉邦夫

先の十七日間にわたる激励行動、支援行動等いろいろありがとうございました。私達六名が十七日間の獄中をしっかりと闘いぬくことができたのも、組合員の皆さんのおかげだと思っております。

本日の不当きわまりない処分に際して、あの獄中で、「嶋田、コノヤロウ！」と思って闘いぬいたあの気持を再び新たにし、これからの不当処分粉砕闘争、あるいは裁判闘争の勝利にむけて、皆様方と共に、最先頭に立ってがんばっていきたいと思います。これからもよろしくお願いします。

警察・国鉄当局の犬になり下った腐敗分子を絶対に許さない

（津田沼支部青年部）　篠塚康則

抗議集会に結集された皆さん、どうもごくろう様です。今、当局は、動労「本部」のデッチあげにもとづいた全く一方的なやり方で、われわれ六名に、休職・そして停職という不当な処分をかけてきました。こんなことは絶対に許せない、このことをまず冒頭に確認しておきたいと思います。それと同時に、やつらが今完全に警察の犬、国鉄当局の犬となり下がり、われわれ労働者への処分を要求するという様なとことん腐敗し切った分子になり下がった動労「本部」反動分子を、絶対に許すことはできません。

私は、一三〇〇名組合員の皆さんの最先頭に立って、怒りも新たに闘いぬいていくことを誓って決意にかえます。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！